

J1 クラブにおける投資効率性と成績の関係

(4. データドリブンマーケティングで作る未来)

阿南勇哉・徳丸士郎・水口夕輔

サマリー

1章 序論

Szymanski&Kuypers(2003)の先行研究で「イングランドのプロサッカーリーグにおいて、人件費が成績を 92 パーセント説明している」ことが証明された。しかし、イングランドに比べ、歴史の浅い J リーグにも人件費が成績の決定に大きく影響しているのかという疑問を 2012 年のガンバ大阪の低迷、同年のサガン鳥栖の躍進をみて抱いた。本研究では、成績の決定要因は人件費だけでなく、各クラブの投資効率であるという仮説を検証していく。

2章 人件費と順位の関係について

各クラブチームが財務諸表を公開した 2006 年～2013 年の人件費支出と同期間の順位を対象にして、J1 リーグの成績と人件費の関係を回帰分析した結果、 $R^2=0.27$ となり、順位の決定に他の要因も存在していることがわかった。

3章 分析方法

DEA(データ包絡分析法)を用いて、選手一人一人の効率値を求め、年度ごとにチームとしての効率値をポジションごとにそれぞれ算出する。この結果と人件費と他の決定要因を説明変数として、成績との関係を重回帰分析で検証する。

4章 分析結果

重回帰分析の結果、選手への投資効率はそのポジションにおいても、成績の決定要因ではないことが分かった。

5章 結論とサッカークラブにおけるデータドリブンマーケティングの展望

今回の分析に使用したデータ以外にチームの勝利になんらかの影響をもたらす未だ数値化されていないデータも数多く存在する。そのような新しい指標を独自のデータ解析によって生み出す会社が今後出現するだろう。J1 平均よりも低予算であっても、データ解析会社とクラブの連携によって、様々なデータを駆使して、タイトルを獲得するチームが現れることを期待している。